

本研究は気象研究所地方共同研究の一環として実施されたものである。本研究に御基力下さった気象研究所・大阪管区气象台の方々に御礼申し上げ、又大阪管区气象台松本観測課長に深謝いたします。

研究の途上で御助言を贈った気象研究所の森口博士、大阪市公害対策部の中野博士、又終始御指導を戴いた京都大学防災研究所の中島教授に心から御礼申し上げます。

最後に資料の提供を願った大阪府立公衆衛生研究所の方々に感謝いたします。

参考文献

- 1) 熊沢安正他, 1965: 大気中の SO_2 ガスの測定について [Ⅲ], スモッグの成因と気象条件について, 大阪府立公衆衛生研究所研究報告, 公害編, 2, 30~36.
- 2) 箕輪年雄, 1963: 大気汚染の予報, 気象研究ノート, 14, 263~271.
- 3) 太田芳夫, 1961: 東京の大気汚染, 気象研究ノート, 12, 99~120.
- 4) 太田芳夫, 1963: 風と大気汚染, 気象研究ノート, 14, 272~282.
- 5) E.K. Kauper, 1960: The Zone of Discontinuity Between the Land and Sea Breezes and Its Importance to Southern California Air-Pollution Studies, Bull. Amer. Meteor. Soc., 41, 410~422.
- 6) 森口 実, 1965: 各地の大気汚染の実態, 大気汚染気象ハンドブック, コロナ社, 321~328.
- 7) L.E. Niemeyer, 1960: Forecasting Air Pollution Potential, Mon. Wea. Rev., 88, 88~96.
- 8) C.M. Boettger, 1961: Air Pollution East of the Rocky Mountains: Fall 1959, Bull. Amer. Meteor. Soc., 42, 615~620.
- 9) M. Neuberger et al, 1961: The Inversion over the Eastern North Pacific Ocean, University of California Press, Berkeley and Los Angeles.
- 10) C.L. Godske et al. 1957: Dynamic Meteorology and Weather Forecasting, Amer. Meteor. Soc., 488~490 and 507~522.
- 11) 原田 朗: 夏期の大気汚染と気象条件について. (発表予定)
- 12) 吉野正敏, 1961: 小気候, 地人書館.
- 13) J.G. Edinger et al. 1961: The San Fernand Convergence Zone, Bull. Amer. Meteor. Soc., 42, 626~635.
- 14) 大阪府公害課, 1965: 大阪府のスモッグ対策 (昭和39年度).
- 15) 原田 朗他, 1966: 濃煙霧のメソ気象学的解析例, 研究時報, 18 (掲載予定).
- 16) 大谷東平, 齊藤将一, 1957: 天気予報と天気図, 法政大学出版局.
- 17) 箕輪年雄, 1961: 横浜, 川崎地方の天気汚染, 気象研究ノート, 12, 68~84.
- 18) 原田 朗: 瀬戸内海と大阪湾の濃霧及び濃煙霧について (発表予定)
- 19) E.W. Hewson, 1951: Atmospheric Pollution, Compendium of Meteorology, 1139~1157.

昭和24年度淡青丸の共同利用申込について

東京大学海洋研究所長 小倉 義 光

とすることとなりました。

記

1. 申込資格: 海洋の基礎的研究を行なうもので原則として大学, その他の機関に勤務する者及び大学院学生等とする。
2. 申込書類: 研究船利用申込書 1通
所属機関長の承諾書 1通
(大学院学生の場合は推せん書)
用紙等入用の向はその旨お知らせ下さい
3. 申込期限: 昭和42年1月31日
4. 申込先: 東京都中野区栄町通1-28
東京大学海洋研究所
5. 採否の決定: 昭和42年3月上旬
おって現在建造中の研究船白鳳丸(2,200T)は昭和42年5月竣工の予定であります。淡青丸の例にならい、初年度中は同船の共同利用の公募は行なわない予定でありますので、ご了承をお願いいたします。

昭和42年度研究船淡青丸の共同利用申込の受付を下記により開始いたします。

なお、当研究所においては、かねてから研究船淡青丸の共同利用について従来よりなお一層効果的にするための方策について種々検討を続けておりますが、その一つの試みとして各年度毎に航海日数の一部を特定海域の研究航海として、その概要をあらかじめ利用希望者にお知らせすることとなりました。つきましては昭和42年度におけるこの特定海域の航海について種々検討の結果

1. 海 域 日本海
2. 期 間 45日以内(東京港からの往復航海日数を含む)ただし一航海10日前後とする。
3. その他 具体的な運航計画(時期, 出入港, 各個の乗船研究期間等)は他の期間の航海と同じく提出された申請書により当所共同利用施設運営委員会において総合的に検討し, 立案する